

首協議を聞き西野謙吾外九名の委員を兼任し上阪中の福岡地方合同労働組合の中心人物たる書記長山崎明次郎に歸郷方を打電し各友誼團體に應援を依頼する一方ピラを撤布し一般従業員に争議参加を勧誘すべく積極的行動に出で組合反対の覺生會と隨所に組合員争議戦を演じたり。

十月三十一日夕刻迄に約四十名内外が争議團に参加するに至りたるを以て争議團本部近くの八幡本町末永方に之等を分朝連城せしめ全末、全興の應援の下に持久戦に入りたるが翌二十二日午前四時始業前に被賊首者三十一名は組合参加の四十二名と應援團八名と共に被弾三丁目の車庫より二臺の電車を引出し爾余の運轉を阻害せんとしたるを以て所轄警より慰撫に努めたるも應ぜざる爲茲に全員（八十一名）總檢束を受けるに至つたのである。

二十二日迄の状況以上の通であるが組合の指導者山崎明次郎は二十二日午後に至るも歸郷せざるを以て全農福佐福早地區常任岩田重藏が指導し居るも全員檢束されたる爲目下身柄引取方に奔走中であるが既に一般従業員は本争議の参加を忌避し居る關係上自然組合側の運動も熾烈化しつつあるが再罷業は到底困難であり、寧ろ組合側の敗北と思維せらるるも山崎明次郎の歸郷並に應援組合の對策如何に依りては其の進展も豫斷を許さざる情勢にある。

(昭和十一年十月二十五日)